

連日、新型コロナウイルス関連の報道が続いている。テレビでニュースを見ていると、都道府県の知事や市町村の首長が出てくる。各自治体のリーダーである。いろいろな方がいらっしゃる。中でも北海道知事と大阪府知事はひときわ若さが目立つ。若いというだけで魅力的ではあるが、ベテランの経験に裏打ちされた判断力も捨てがたい。

報道を見ていると、国に先んじて北海道知事の迅速な対応と英断が際だった。北海道知事である鈴木直道という人物に興味を湧いたので調べてみた。

埼玉県、春日部市出身。高校在学中にご両親の離婚により母子家庭となり、経済的な事情から大学進学を断念する。東京都職員採用試験に合格し、18歳の4月に東京都庁に入庁した。19歳の4月に法政大学第二部法学部法律科に入学し地方自治を専攻、4年で卒業する。2008年1月に当時の猪瀬直樹東京都副知事の発案により北海道夕張市の市民課市民保険グループに派遣された。夕張市は当時、財政が破綻し、職員数が半減していた。財政再建団体に転落しており、富裕な東京都として他地域を支援するとともに、財政破綻の影響を都職員に実感してもらうため送り込まれた二人のうちの一人だった。2008年に、夕張メロンの果汁を使用した「夕張メロンポップコーン」を発案する。当初は1年の期限付き派遣の予定であったが、1年間の延長を自ら申し出た。2010年3月に夕張市への派遣期間が終了し、最終日には多くの夕張市民が市役所前に集まり、幸福の黄色いハンカチを振って鈴木氏を見送った。2010年11月に東京都職員を退職する。

夕張市民の要請により2011年4月の夕張市長選挙に無所属で出馬し、初当選を果たした。市長職に全国最年少の30歳1カ月で就任した。市長時代は、日本一給料の安い地方自治体首長として紹介されている。財政再建団体のため、月額給与は70%カット、退職金と交際費は100%カットしていた。2012年には、被災3県（岩手県、宮城県、福島県）の子どもたちと家族700名を受け入れた。2013年7月に、夕張メロンを世界に通じるブランドにするべく、カタールへ渡った。鈴木氏自身が手荷物で約50玉のメロンを運び、現地では好評を得た。0泊3日の強行日程、渡航費用など30万円は私費、メロンは夕張市農協からの無償提供であった。翌年には、夕張メロンのアジア初輸出が決まる。2015年4月に夕張市長に再選され、2期8年市長を務めた。この間、市民からは市長の給与を上げるよう要望が出されている。2019年2月に夕張市長を退任し、4月の北海道知事選挙で初当選した。

ざっとこのような経歴の人物である。リーダーには信念と覚悟が必要だと思う。鈴木知事には、それが備わっているのであろう。学校の校長も同じである。リーダーには決断が求められるが、同時に責任もついてくる。相当の覚悟がなければやっていけないし、務まらない。

各自治体の首長の物腰、言動などから学ぶこともある。これからも北海道の若きリーダーの言動には注目していきたい。鈴木直道という人物がどこを見ているかはわからない。何を目指しているのかもわからない。だが、夕張市長時代には夕張市のために全力を尽くし、北海道知事である現在は北海道のために力を尽くしていることは確かなようである。

では、この人物が日本のために力を尽くすようになったらどうなるか。ちらっとそう考えたくないような人物に見えるのは私だけだろうか。春の選抜高校野球も中止となった。いよいよ追い詰められてきた感がある。全く先行きが見えない。ついにWHOは“パンデミック”を宣言した。もはや一つの国単位の問題ではない。全世界的な問題である。

来週3月16日（月）は前期選抜合格者発表の日である。合格者は、梁川高校で卒業する最後の生徒となる。学校の校長として、常に最悪を想定してはいるが、何とか晴れの門出を祝う「入学式」をやってあげたい。